

## 国際会議で日本初 横浜ブルーカーボン・オフセット制度の証明書を取得 ～CO<sub>2</sub> 排出量 9.2t をオフセットしました～

公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューローは、2020 年 12 月にパシフィコ横浜ノースで開催した 2<sup>nd</sup> ICCA<sup>※1</sup> Asia Pacific Chapter Summit 2020 (以下、ICCA AP Summit 2020) の主催者の一員としてサステナブルな会議運営を推進し、海洋資源を活用した横浜市独自の温暖化対策プロジェクトである「横浜ブルーカーボン・オフセット制度」(別紙参照)を通じてカーボン・オフセットを行いました。横浜ブルーカーボン・オフセット制度とは、横浜の海を舞台にした世界でも類を見ないカーボン・オフセット制度で、ICCA AP Summit 2020 は当該制度を採用した日本で初めての国際会議です。

ICCA AP Summit 2020 の参加者・運営者の移動距離、会場でのエネルギー使用状況から CO<sub>2</sub> 排出量を測定し、9.2t-CO<sub>2</sub> を横浜カーボン・オフセット制度によるカーボン・オフセットを実施しました。

参加者からの登録料の一部を CO<sub>2</sub> の排出削減・吸収活動の投資(オフセット)資金として活用することで、参加者全員を含めた ICCA AP Summit 2020 全体でのオフセット活動を行いました。市独自の制度で横浜の海の魅力の向上につながり、参加者からは、この制度により横浜の印象が更に良くなったとの評価を得ることが出来ました。

### ◆ICCA AP Summit 2020 におけるブルーカーボン・オフセットの実施概要

#### 【カーボン・オフセットを行った者】

ICCA Asia Pacific Chapter Summit 2020 実行委員会

#### 【実施期間】

2020 年 12 月 15 日 (火) -16 日 (水)

#### 【オフセット量】

9.2t-CO<sub>2</sub>

#### 【オフセット対象】

- ・参加者・運営者の移動で排出される CO<sub>2</sub>
- ・会場でのエネルギー使用により排出される CO<sub>2</sub>

今後も横浜観光コンベンション・ビューローでは、サステナブルな国際会議の開催を可能にする取組を通じて主催者を支援していくと共に、地域への経済効果につながる国際会議の誘致に取り組んでまいります。



横浜市より発行されたカーボン・オフセット証明書

※1 ICCA (国際会議協会) : 1,100 以上の企業や団体、また約 100 の国や地域が会員として参加している国際会議に係わる業界団体です。

## 海洋資源を活用した温暖化対策プロジェクト

# 横浜ブルーカーボン

### ブルーカーボンとは？

海洋に生息する海藻などの生き物によって吸収・捕捉される炭素のことです。森の緑と同じように、わかめなどの海の生き物も CO<sub>2</sub> の吸収・削減に貢献しています。ブルーカーボンは、2009年の国連環境計画(UNEP)の報告書で命名されました。



▲養殖コンブ  
(横浜市漁業協同組合)

### ブルーリソース

海洋エネルギーの活用や臨海部の低炭素化など、海洋及び臨海部におけるエネルギー・資源の有効活用のことです。



▲海水ヒートポンプ  
(株式会社横浜八景島)

### 独自のカーボン・オフセットの取組

市内企業・団体の「わかめ地産地消」、「海水ヒートポンプの導入」、「LNG燃料タグボートの導入」等による CO<sub>2</sub> 削減効果を活用し、世界トリアスロンシリーズ横浜大会の開催などで排出された CO<sub>2</sub> のオフセット(埋め合わせ)を行っています。



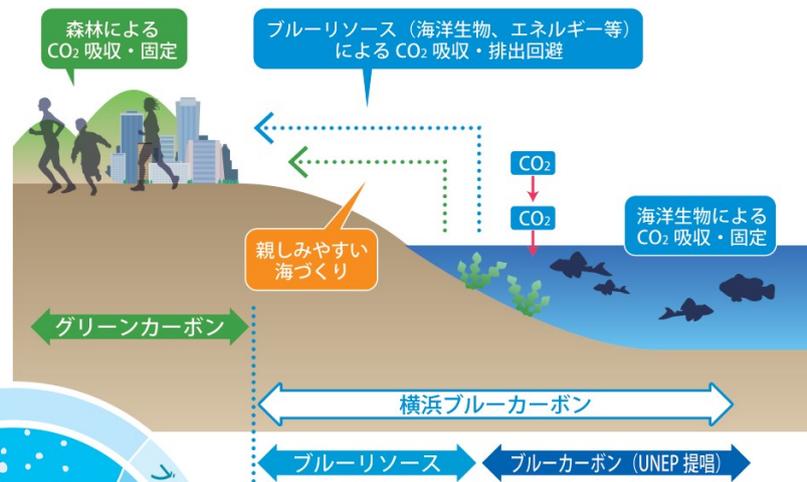
横浜産わかめの試食会



海藻おしぼ教室



わかめ収穫イベント



『横浜ブルーカーボン』では、「ブルーカーボン」に限らず、臨海部におけるエネルギー等の利活用に着目した「ブルーリソース」や、人と海とのつながりを築く「親しみやすい海づくり」を進めています。

### 親しみやすい海づくり

市内企業・団体や大学等と連携しながら、わかめの植付け・収穫イベントや東京湾の生きもの観察ツアー、横浜産わかめ試食会などの環境啓発活動を行っています。



▲東京湾の生きもの観察ツアー



© Satoshi TAKASAKI/JTU

# ブルーカーボン・オフセットで 横浜の海をもっと魅力的に

## ブルーカーボン オフセット実施イベント・企業

## ブルーカーボン クレジット創出企業



(カーボン・オフセットフォーラム Web ページ掲載図を基に作成)

トライアスロン大会等のスポーツイベントの開催や事業活動に伴い排出された CO<sub>2</sub> のオフセットを実施

### ●ブルーカーボン・クレジット



横浜市漁業協同組合



日向市



普代村



阪南市

【プロジェクト】

養殖コンブによる CO<sub>2</sub> の吸収 (横浜市漁業協同組合)、宮崎県日向市のアラメ場における CO<sub>2</sub> の吸収、岩手県普代村における養殖ワカメ・コンブの CO<sub>2</sub> 吸収、大阪府阪南市における養殖ワカメの CO<sub>2</sub> 吸収

### ●ブルーリソース・クレジット



株式会社新日本海洋社



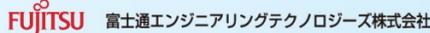
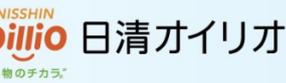
NPO 法人海辺づくり研究会



株式会社横浜八景島

【プロジェクト】

LNG 燃料タグボートの導入による CO<sub>2</sub> 削減量 (株式会社新日本海洋社)、ハイブリッドタグボートの導入による CO<sub>2</sub> 削減量 (株式会社新日本海洋社)、わかめの地産地消による CO<sub>2</sub> 削減量 (横浜市漁業協同組合 / 株式会社横浜八景島 / 海辺づくり研究会)、海水ヒートポンプの導入による CO<sub>2</sub> 削減量 (株式会社横浜八景島)



(令和 2 年度実績)

### ●横浜ブルーカーボン・オフセット制度

カーボン・オフセットとは、自らの CO<sub>2</sub> 等の温室効果ガス排出量のうち、どうしても削減できない量の全部又は一部を、他の場所での排出削減・吸収活動に投資することによって相殺することをいいます。本制度は、市内の「ブルーカーボン」や「ブルーリソース」による CO<sub>2</sub> 吸収量の増大及び排出量の削減効果を、取引可能なクレジットとして独自の的方法論によって認証し、そのクレジットの売買を行うことで、海の環境活動の更なる推進を目指す、横浜の海を舞台にしたカーボン・オフセット制度です。



みんなで育てよう、地球を守る海の力。  
横浜ブルーカーボン事業は SDGs 達成に貢献していきます。

